

人物図鑑

ねむろを愛する
素敵な人たち

「子どもらのエネルギーをもらって、
読み手と取り手の真剣勝負」

百人一首の読み手40年
市内宝林町4丁目とみかわ
富川しんや
伸也さん (66)

お正月ならではの遊びも、近頃では目にするのが少なくなりましたが、毎年、根室市地域子ども会育成連絡協議会と根室市教育委員会が主催する「根室市子ども百人一首カルタ大会」には、多くの根室っ子が参加し熱戦が繰り広げられます。

今年も、1月20日に根室市青少年センターで開催されるこの大会で、読み手を務める根室市地域子ども会育成連絡協議会理事の富川伸也さんは、「カルタに向かう真剣な子どもたちの姿は昔と変わらなく、元気なエネルギーをもらうことができそうですね。」と、カルタを通しての子どもたちとの交流を楽しみにしていることを話してくれました。

富川さんがカルタを始めたのは、小学校4年生のときに地域のカルタ大会に参加したことがきっかけでした。当時、

カルタは盛んに行なわれており、子どもから大人まで気軽に楽しんでいました。富川さんは、就職のため厚床地区に移ってからも子ども会でのカルタの読み手を続けるなど、40年以上の経験を持っています。

「北海道では木札を使うのが特徴で、下の句による競技です。カルタは、読み手も取り手も体力が勝負です。反射神経と記憶力も鍛えられ、若さを保つには最高ではないでしょうか。」と、熱い会話から百人一首に対する心酔ぶりが伝わってきます。「句を読むにも、入りの呼吸や余韻で取り手に読み取られてしまいます。いかに読み取られないようにするかが、難しいところですね。」と、競技での読み手の大変さを語ってくれました。一試合で120枚ほどを読み上げるのですから、体力も必要なことがわかります。

昔のように、家族や学校でもカルタを楽しんでコミュニケーションを取ってほしいと富川さんは語ります。協議会では、要請があればメンバーが出向き読み手を務める活動も行なっています。ぜひ、この機会に百人一首カルタの楽しさと、歌人の心に触れてみてはいかがでしょうか。